

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	シーランチ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 27日		2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との月1回程度の事業所内面談以外に、日々の電話・メール連絡、直接対面での会話等を通して、最近の様子を伝えたり家庭・家族の困り感を聞く等やりとりを多く持つ事です。	母子・父子通園している際や、日常の中で電話やメール等で子どもの様子を伝える事で保護者との信頼関係作りを努めました。定期的なグループカウンセリングを開催し、保護者同士の繋がりを持って、悩みの共有や子どもの変化の喜びを分かち合えるように参加を促し支援をしています。	引き続き、月一回程度の面談や日常の電話・メール連絡等を行い保護者との信頼関係の構築に繋がりを持ちます。また、グループカウンセリングやグループスタディへの参加を促し家族支援の拡充を図っていきます。
2	人材育成では法人研修、年代別研修、朝研修、外部講師による研修など学ぶための制度が充実しています。外部研修にも積極的に参加し専門的な力をつけることに努めています。	座学やディスカッション、体験型の研修、部署間交換研修など研修内容を年間通して計画しています。長時間の研修以外に、日常的に子どもと関わる際の肯定的な関わり方の練習などロールプレイで行っています。	人材育成については引き続き個別SV、グループSVを定期的に行い、相談や連携がとりやすく困っていることを相談して解決に導いていける建設的な組織作りにつなげています。
3	年長児童の就学に向けての取り組みとして、むぎのご発達クリニックと連携して小集団療法を受け、就学後を見据えてグループでルールのある活動やハサミなど手先を使う活動、文字の読み書きに慣れる活動等を行っています。	クリニックでの取り組みではありませんが、職員が同行し、活動のサポートに入っています。活動の様子を心理士や医師と共有し、課題や支援のポイントを把握して事業所での支援に繋げています。	クリニックとの連携が家庭にも更に繋がるよう、保護者に定期診察の意義を伝えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園との交流や、地域の子どもたちと交流する機会が少ないです。	延長支援時間中に法人内の保育園と交流する機会が多く、クラス全体の子どもたちが交流する機会が少なかったです。法人内の保育園に同学年の児童がおらず、交流の機会が減っていました。	法人内の保育園と一緒に活動の計画を立てるなど交流する機会を積極的に持てるようにしていきます。
2			
3			